

初めてでもできる土のうの作り方・積み方

備えあれば
憂いなし!!



かめぼ〜

土のうを作る際に必要なもの

①土のう袋 ②スコップ ③土または砂（高松市の常設土のう作製場所として香東川浄化センター「開設時間：午前 8 時～午後 7 時」【イオン高松店北側】に砂が準備されており、手続き等は不要で、土のう袋とスコップを持参のうえ、自身で作製して持ち帰る。）

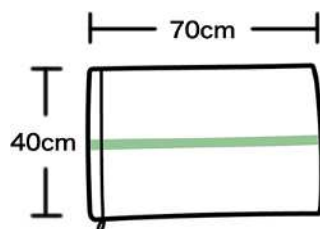
※土のう袋はホームセンター、通信販売等で購入できます。

※水で膨らむ土のう袋もあり、緊急時には役立ちます。

土のう作り

出来れば 2 人一組で土のう袋に土または砂をスコップで 6～7 杯（20～30kg）入れる。底をくりぬいたバケツ等を使うと土のうを作製しやすい。土のう作製の大きさにばらつきがあると上手に積上げにくいので統一すること。（運ぶ人の労力によって、重さを少し軽くしてもよい。）

土のう袋の口にあるひもを引っ張って縛り、縛ったら人差し指と一緒にひもを 2～3 回巻いていき、ひもの先端を人差し指と一緒に巻いた部分にくぐらせて引っ張る。



土のう袋を用意します



スコップ 6～7 杯（およそ 20～30kg）の土を入れます



袋の端のひもを引いて口を絞ります



絞ったひもを 2～3 周回し、ひもの先を下から上へ通し締めます

土のうの積み方

水の流れがある場合、縛り口を下流に向け上流側から積んでいき、水の流れが無い宅地等の入口に設置する場合、縛り口を家側に向けて3段程度(1段目を隙間なく置き、足等で踏み均し平らにして、2段目以降は1段目とずらして交互に重ねて)置くとよい。背後に控え土のうを設置すると、より強固になる。

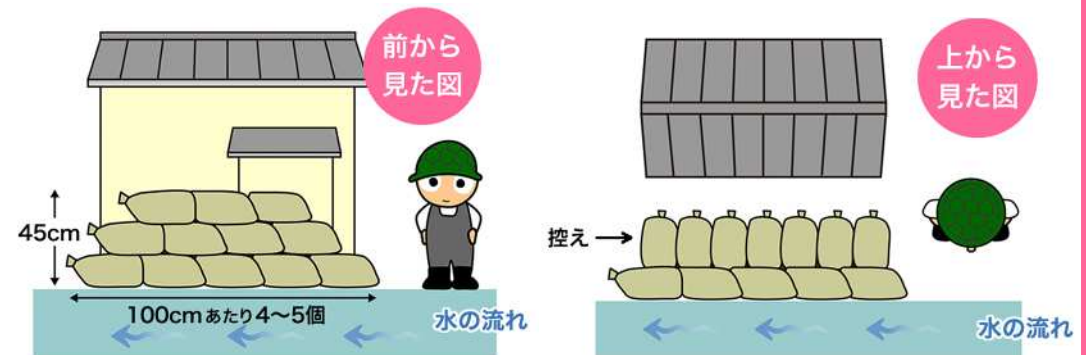
設置幅1mあたり土のう4~5個で、1段あたりの高さは約15cmで3段45cm必要である。

(1m設置するのに、4~5個×3段=12個~15個必要で、設置時間は30分程度要する。)

土のうの保管方法

土のう作製後使用しなかった場合など、有効な保管方法を知ったうえで片づける。

そのまま雨ざらしで放置しておく、紫外線などで劣化し袋が破れやすくなるので、UV加工されたビニールシートなどをかぶせるとよい。



住んでいる場所の浸水の危険度はハザードマップで確認できます



【ポイント】

- ・袋の口は圧力がかからない方向へ向けて設置！
- ・袋と袋の間に土を入れて隙間を埋める！
- ・設置後は、足で踏み固めると強くなる！

台風や大雨による浸水防止対策として、土のう設置は効果的です。
家屋の入口などに置くことで水の浸入を防ぐことができます。
どのように置くとより効果的か考えておくことが大切です。



イラスト：峰山デザイン